

4	キャリア在り方生き方教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学習を進めることで、地域に大切なものが残されている意味や地域の人の思いを理解し、地域の一員として大切にしていこうとする意識を高めることができた。 ・他教科とのつながりが明確でなく、また、担任からの指導や声かけも継続的なものではなかった。生活科や道徳、その他日常の様々なところに関連したものがあるので、学んだことが習慣化するよう継続して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科や道徳、その他日常の様々なところに関連させながら、引き続きキャリアノートとカリキュラムを連動させキャリア在り方生き方教育を推進していく。 ・地域での調査や体験を多くすることで地域の課題を自分事としてとらえさせたい。 ・市制100周年に向け地域を意識した活動をすすめていく。
5	人権尊重教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性を認め合うことを意識して取り組むことができた。 ・SOSの出し方受け止め方教育を行ったことで、子ども自身が自分のもつ権利について知ることができ、進んで友達や教師に助けを求められるようになった。また、効果測定の結果をもとに様々な課題をもつ子どもの支援について手立てを考え実践することができた。 ・子どもから信頼される大人集団になれたか、振り返りを徹底していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育てたい力を明確に、子どもたちとの対話を大切にしながら人権感覚を磨いていく。 ・効果測定をもとに教職員間で子どもの個性や人間関係を見取り、共通理解を図る。共生共育プログラムにも計画的に取り組み、日々の授業の中で人権を大切にしている指導を意識していく。 ・SOSの出し方受け止め方教育は、子どもに寄り添う気持ちで継続していく。 ・だれ一人取り残さないというSDGsの目標とも関連させ、自分たちにできることを考える。
6	道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業では、役割演技をしたり見たりすることを通して、子どもたちは人物の気持ちを深く考えることができた。道徳の学習の最後に振り返りの時間を設けたことで、学んだことが自分事としてとらえられるようにした。 ・様々な立場になって考えること、多様な価値観があることを授業を通して考えさせた。 ・教員の言葉遣いを意識したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が言葉遣いを丁寧にする、子どもたちに寄り添う気持ちを大切に他者を思いやる気持ちを育て、日々の生活での指導を大切にしている。 ・子ども自身が道徳的価値について考え、学びを深めるために、子どもの思考を揺さぶる問い返しをするように意識していく。
7	望ましい学習態度、学習習慣の形成、学校生活の約束の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年として下級生の手本となるように、学校の約束を守るよう声をかけたことで、落ち着いた学校生活を送れていると感じている。 ・学年全員を育てるということを常に意識し、自分のクラスの子どもに対してはもちろんのこと、他のクラスの子どもに対してもダメなことはダメと、きちんと指導をすることができた。 ・あいさつができる子を増やすこと、学校のきまりの定着には全職員で声掛けが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを越えてどんな人にも挨拶することができるよう、あいあつや廊下歩行など学校生活をよりよくしていくために大切なことを久地小議会でも議題として取り上げ、約束を守る態度を育てる。 ・久地小ナビの内容を見直ししながら、保護者にも周知する。

8	豊かな心、健康な心身の育成	人とかかわる活動や体験活動の充実を図り、感動する心を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティア、地域学習協力者(梨や消防、スーパー)等と連携し、学習を進めることができた。 ・虫とり活動では、「こんなにたくさん虫がいるなんて知らなかった」と自分たちの住む久地の町の新たな魅力を知ることができた。 ・パラスポーツ体験や環境学習は子どもが身近な福祉や環境問題を考えるきっかけになった。 ・外部人材の活用について見通しをもちながら計画的にすすめたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会などで教育活動に見通しをもつように心がけ、図書ボランティア、学習支援ボランティア、教育活動サポーター、地域の学習協力者を積極的に活用して教育活動をすすめていく。 ・読書活動も計画的にすすめ、子どもの感受性を育て豊かな心の育成に努める。 ・梨づくりや川崎北工業会との交流等、地域素材を生かした学習など、地域の方と交流できる学習を計画的に行う。
9		自分の体は自分がつくり守っていくという意識と実践力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と食育の授業を行い、一食分の栄養について考えたりバランスよく食事をとることや、朝食の大切さを伝えたり、天気の良い日には外で遊ぶように声をかけたりしたことで、子どもたちは、健康で元気な体作りに大切な望ましい生活習慣を身につけられたと感じている。一方、体力低下をどう克服していくか検討する必要がある。 ・運動委員会で、自ら進んで運動に取り組めるように企画を考え、(かわさきキッズ体操をしよう)実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に食育担当者を設け、栄養職員や養護教諭と連携し、カリキュラムを計画的に進める。 ・子どもの体力向上にため、キラキラタイムの実施や児童会を中心とした、運動に親しめる集会を計画していき、健康教育を充実させる。 ・どうすればあきらめない心が育てられるのかについて、職員間で話し合う機会を設けていきたい。
10		日常の体育学習の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間前に活動のための場づくりを行い、活動時間を確保できるように心がけ子どもたちは楽しみながら体育の学習に取り組むことができています。 ・めあてをもって学習に取り組めるようGIGA端末でもカードを作成し学習状況を共有できるようにした。 ・「運動することが好きですか」の回答が川崎市より低い。やってみたい！できるようにしたい！と思えるような場づくりや声かけが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの見直し、育てたい力に合わせて、めあてを記入させて運動に取り組ませる。 ・体育倉庫の整理や教具の補充とともに、場づくりなどの職員研修を実施していく。
11		子ども一人一人が存在感、自己有用感を高められよう特別活動の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・久地小タイムでは、委員会活動を熱心に取り組む姿が見られた。 ・係活動・当番活動・実行委員の活動では、自分がみんなから必要とされていると感じられるよう、また、一人一人のよさが発揮できるように声をかけたり支援をしたりしてきた。子どもたちは、自分の役割に責任をもって楽しみながら活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスや学年の中で子どもたちの活動が認められるような場面を作っていく。 ・久地小タイムを利用した委員会やクラブ活動の発表の機会を保障していく。 ・川崎SDGsパートナーとして、SDGsを意識した活動を子どもたちと考え、実行していく。

12	子どもの居場所、集団作り	各学年に応じた自主的な取組を大切にしてい	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員や当番の活動では、一人一人が自分の役割に責任をもって取り組むことができるように必要に応じて支援をしてきた。子どもたちは、自分の取り組みがクラスや学年を支えていることに気づくことができた。 ・異学年交流ができそうな機会を意図的に設定したことで、上級生に対して「こんなふうになりたい」と憧れる姿も見られた。相手意識をもって遊ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の実態に応じて、実行委員会の活動の意義やねらいを確認し、一人一人が役割をもって主体的に活動できるようにする。 ・一人一人に役割をもたせ子どもの居場所づくりや心の教育に心がける。 ・学年交流では遊びを通して相手意識や思いやりをもてる機会を作り、イチロク(1年と6年)、ニコニコ(2年と5年)、3年4年交流を増やしていく。
13		一人一人に応じた指導を行い、児童同士の間関係や変化を見逃さないようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気になる言動があれば、すぐに学年で情報を共有してきた。児童指導が必要な場面では、一人に対応するのではなく、管理職や支援教育CO、学年担任も同席し、複数の職員で対応した。 ・児童にアンケートを実施後、一人一人の聞き取りを確実にし、実態把握に努め、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるようにしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や面談等で児童の情報を共有し、変化や状態を把握できるようにする。週1回の打ち合わせでの全体共有を継続。 ・年3回の個人面談やアンケートをとったあとの丁寧な児童からの聞き取りをして、思いに寄り添う。
14		特別な支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じた細やかな指導を心がける	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席傾向にある児童の実態を把握するため、児童へのヒアリングを行ったり、支援教育COと連携して保護者と面談を行ったりした。 ・登校渋り傾向がある児童に対し、児童に寄り添って丁寧にヒアリングを行い、迅速に実態把握を行った。また、保護者と連携を実施し、児童と保護者、教職員で共有認識を図りながら対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席傾向にある児童の登校支援について、スピード感をもって保護者と連絡を取り、チームで支援をしていく。 ・子どもの状態が悪化する前に、支援を要する児童についてケース会議を行い、対応方針を確認していく。 ・どのようにその子と関わっていくか、職員全員に共通理解を図ることで統一した指導を行う。
15		望ましい人間関係づくりのために、学年・学級経営を基盤にした協働体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で起きた様々な出来事については、スピード感をもって学年・管理職・保護者に報告・連絡・相談をするようにしてきた。難しいケースに関しては、担任一人に対応せず、複数での聞き取りを行うことで、状況を正確に把握することに努め、保護者に寄り添った対応をするようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や児童指導部で話題になった内容について、支援教育COを中心としたケース会議で具体的に児童や保護者の対応について検討していくようにする。 ・報告・連絡・相談を徹底していく。
16		保護者、地域の方の協力を得ながら教育活動の充実につとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して学校の教育活動への協力をお願いしてきたことで、子どもたちは、学習内容を充実させたり、理解を深めたりすることができた。 ・社会科では各学年、地域素材を活用し、学習に役立てることで、子どもたちの目が地域に向くようになった。 ・「学校e～ね☆サミット」では、学習したことをもとにスライドをまとめ、発信できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会などで教育活動に見通しをもつように心がけ、図書ボランティア、学習支援ボランティア、教育活動サポーター、地域の学習協力者を積極的に活用して教育活動をすすめる、子どもたちの心に郷土愛を深めていきたい。 ・子どもの声を形にするために、学校運営協議会とも連携をとりながら教育活動をすすめる。

17	家庭・地域との連携の充実を図る	危機管理に対する意識を高め、緊急時(地震・火災・防犯等)のマニュアルを充実させ、その活用方法について教職員で確認していく	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にシェイクアウト訓練を実施。火事発生時に防火扉が閉まったときの避難訓練ができた。実際に近い場面を想定した予告なしの訓練にすることで、教職員の動きや児童の動きへの課題を発見することができた。 ・子どもが自分で自分の命を守ることができるようになることをめざし、避難訓練のときだけでなく、普段から防災意識が高まるように声をかけてきた。 ・今後は、より実践的な避難訓練や教職員の防災研修の実施が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校防災対策指針に基づいて作成した危機管理マニュアルを全職員で共通理解をし、より実践的な研修や訓練、防災教育を行っていく。 ・危機管理意識を高めるため、学校事故の初期対応として、保護者にきめ細かく連絡を入れることを常に心がけ、ケガ等学校事故発生時には、担任と養護教諭が連携し、迅速で誠実な対応を徹底していく。
18		学校便り、ホームページ、授業参観等を通して、保護者、地域に学校の教育活動を発信していく	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを定期的に更新することで、学校生活の様子について知らせることができた。 ・今後は、学校ホームページに、学年だよりを掲載するなど、より保護者のニーズに応えた取り組みが必要だと感じている。 ・学校からのメールが多くなり、重要度が伝わりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで教育活動のようすが伝わるように定期的に更新していく。 ・学校だよりや学年だより、保健だより、ミマモルメなどで保護者が必要とする情報を定期的に発信していくようにしていくとともにホームページから各たよりを見られるような工夫をしていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・久地小議会の子どもたちの話し合いが素晴らしい。今年度のスローガンを掲げて1年間活動してきたが、スローガンにたちもどって達成できたこと、達成できなかったことを考えている姿がすごい。 ・GIGA端末で話し合いの記録がされて、画面で共有しているのがすごい。 ・次年度に引き継ぎたい内容も整理され、自分たちの学校をよりよくしたい気持ちが伝わってくる。 ・各委員会の子どもたちが学校を意識している。学校をよくしていきたいという思いを感じた。 ・花で学校をきれいになりたい。栽培活動については、植物を植えるだけではなく、日頃の手入れ、たとえば雑草をどうするか、雑草が生えていたらどうなるのか等、しっかり指導していくべき。年間の栽培計画をきちんとたてる。 ・子どもが実際に動ける防災教育をしていく。 ・子どもたちの「もっとよくしたい、こうしたい」という気持ち大切に、大人が手伝っていく。 ・子どもたちが、役に立っているんだと思えるよう活動を充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的対話的で深い学びの視点にたった授業改善、GIGA端末も活用しながら興味関心がもてるような授業づくりを工夫した。また、川崎市学習状況調査の結果分析を行い授業改善に努めることができた。 ・市制100周年にむけて、地域素材を意識した社会科の自主研究をすすめ、地域を知る機会をつくった。また、キャリア在り方生き方教育の郷土愛とのつながりも目をむけることができた。 ・担任が丁寧な言葉遣いで話すことで、一人一人を大切にする指導を心がけるようにした。また道徳の授業を通してお互いの考えや思いを交流したり、互いの考えや思いにふれたりすることで他者を思いやる気持ちを育むことにつなげることができた。引き続き、子どもの心の育成、感受性を育むため読書活動の推進していく。 ・児童指導体制については構築されてきているが、児童指導の対応、保護者対応などに職員間に温度差がまだあるので、保護者から、そして子どもから信頼されるよう、引き続き対応の仕方について意識を高めていく。 <p>体力低下が非常に気になる。体力向上のため、きらきらタイムの充実に努めた。</p>